

**合同チーム（月形・札幌白陵・静内・函館西Ｂ・雄武・白糠・上磯）
シン・ヒナクンレン**

発表要旨

世界中で自然災害発生している中、日本の学校では自然災害に備えて避難訓練を行っている。しかし、「学校での避難訓練が形骸化し、自分の身を守ることができるのか」という問いから、防災教育への関心が高い道内7校と道外の4校がオンライン会議を実施した。2度の協議を経て、私たちが考える「理想の避難訓練」を作成・提案し、世界へ発信する。

1. 背景と目的

昨今、世界中で自然災害が発生し、北海道においても大きな自然災害が過去30年間に3度も発生している。日本では、1960年に「防災の日」を制定し、各学校で避難訓練が行われるようになった。しかし、生徒が先生の指示に従うだけの形骸化した訓練では、自分たちの身を守ることができないと感じた。そのため、生徒が主体的に考え、行動する「シン・ヒナクンレン」を提案することとした。また、日本の避難訓練を世界にも知らしめたい。

2. 方法

- ・第1回オンライン会議（道内外11校）による各校の避難訓練について情報提供
- ・訪日客や海外留学生等を対象に避難訓練についてのアンケート調査の実施
- ・第2回オンライン会議による「理想の避難訓練」について協議
- ・理想の避難訓練（シン・ヒナクンレン）の作成

3. 結果

- ・海外において、避難訓練があまり行われていない実態が判明した。
- ・オンライン会議における各校の実践報告から、自校の避難訓練を改善することができた。
- ・各校の生徒の意見をもとに、「理想の避難訓練」を作成・提案することができた。
- ・本取組について、他校からも多くの関心や情報提供が寄せられた。

4. 結論

- ・自然災害から自分の身を守るためには、主体的に考えて、行動する避難訓練が必要であることが分かった。
- ・日本のみならず、世界の学校において、生徒が主体的に考えて、行動する「シン・ヒナクンレン」を提案できた。

5. 今後の課題

- ・日本防災士会や防災教育を専門とする有識者から、本モデルへの意見を集約し改善を図る。
- ・各地域における「シン・ヒナクンレン」の実施と防災意識向上の還元を図る。
- ・アジアを含む世界各地へ「シン・ヒナクンレン」のオンラインによるアドバイスの実施。

6. 参考文献

「令和5年度 調査研究部研究報告書」（令和6年1月北海道高等学校長協会）